

IV. 下の短文は、浜松と楽器工業の地理的・歴史的関係である。

[10]

(① ～ ⑩) に入る地名・人名・用語等を記入しなさい。

1. 現在の (①) 県浜松市は徳川家康が (②) の河岸段丘上に城を築き城下町として人口が増えた。
2. 江戸初期の頃から庶民の着物地は、それまでの薄い (③) から保温性のある綿布に変わり始めた。
3. 浜松では ② の低地にある島畑 ((④) 堤防上) が綿花栽培の好適地で綿畑が増えた。
4. 浜松では綿花を原料に綿織物業が盛んになる。これには機織 (はたおり) 機の発展があった。
5. 機織機の材料は ② の上流から筏 (いかだ) で運ばれてきた木材で、浜松周辺はその集積場であった。
6. 浜松周辺は (⑤) からの空っ風の通り道で木材の乾燥に適する。そのため用材化しやすい所であった。
7. 当時の機織り機は足を交互に踏み込む組立機械で、後のピアノ組立への素地が浜松にはあった。
8. 明治初期に近代教育が始まり、学校の音楽には (⑥) ・ピアノが配置された。
9. 浜松で小学校の ⑥ の修理に (⑦) 寅楠が携わる。 ⑦ は時計・医療器具などの修理工であった。
10. 明治後期、浜松で ⑦ が日本楽器を創業。当時の技術者には河合小市 (後に河合楽器創業) がいた。
11. 昭和初期、日本楽器が陸軍浜松飛行場の飛行機用に木製 (⑧) を造った。
(⑧ はグランドピアノの曲線作業を活かして製作)
12. 日本楽器が金属 ⑧ を造る。これが後の (⑨) 楽器の製作につながった。
(戦後はヤマハ・YAMAHA のブランド名を使用)
13. 昭和後期、「ヤマハ」と会社名を変更し、スポーツ・半導体など経営も幅広く (⑩) 化して現在に至る。
(ヤマハは 1969 年にピアノ生産台数が世界 1 位になり今や世界最大の総合楽器メーカー)